

参加スタートアップ一覧

NO	DX分類	大学	社名・URL	事業概要
1	ロボティクス	奈良先端科学技術大学院大学	 株式会社amirobo tech https://www.amirobo.tech/	環境知能学的ICTを用いたサービス事業、ロボット・アプリ開発事業を展開しております。テレビを見ながらおしゃべりするとアプリが会話をしてくれる「だべらいぶ」や、地元商店が地元のお年寄りなどに通販するアプリ「Amimartあみま」などを開発・提供している。
2	ヘルステック	京都大学	 エニシア株式会社 https://enishia-inc.co.jp/	多忙な医師の業務を最も逼迫する要因は、診断書や紹介状といった患者の状態を説明するための「文書作成業務」です。電子カルテにはすべての情報を記載しなければならないため、カルテの数が多くなるほど患者の状態把握は困難になります。そこで我々は、重要な情報だけを抜粋した「カルテの要約」の作成を支援するソフトウェアを開発し、医師の負担軽減を目指しています。
3	ロボティクス	関西大学	 ORAM株式会社	Robotics・Sensing・Wireless で構成されるRemote Roboticsであらゆる車両を遠隔化し、搭乗・遠隔・自動を併用するハイブリッドオペレーションの実現で、現場の生産性向上と人手不足問題を解決するソリューション提供を強みとしております。あらゆる現場作業で発生する人手不足・生産性向上の問題に対し独自のソリューションを提供することで、お客様の問題を現場の人手を増員することなく（ひとが居らん状態）解決することにあります。
4	教育・企業	奈良先端科学技術大学院大学	 株式会社dtosh https://dtosh.jp/	「教育者が持つ悩みをIT技術で解決する」ことをミッションに掲げ、世界の大学と共同研究し、世界最先端のオンライン教育システム・学習塾サービス(C2ROOM、dtosh学習塾)や企業デジタル導入支援、デジタルマーケティング支援を展開しております。
5	ヘルステック	大阪大学	 PGV株式会社 https://www.pgv.co.jp/	高精度ウエラブル脳波計測技術を実用化し、計測した脳波をAI解析して脳活動の可視化と定量化を進めています。パッチ式脳波センサーは冷却シートの様におでこに貼るだけで正確な脳波の測定ができます。将来は「認知症」の早期発見に繋がる研究開発を行っております。
6	屋内位置測位	関西大学	 株式会社Phindex Technologies https://www.phindex-tech.com/	どのような環境でも簡単に導入できる、高精度な位置情報システムを提供しています。測位エリアに最小3点の定点ビーコンを設置するだけで位置測位環境の構築が完了スマートフォンやBLEタグの位置測位に対応し、ユーザーの負担を最小限にした人やモノの位置測位を可能とします。日米特許取得済の自己組織化アルゴリズムにより、高精度リアルタイム位置測位をクラウドサービスで提供します。
7	人流解析	大阪大学	 株式会社HULIX https://www.hulix-tech.com/company	LIDARを用いた解析技術「ひとたび」を活用し、空間を行き交う人やモノをリアルタイムに空間時系列データへと変換します。空間の時系列データは画像認識だけでは不可能な高度な分析を可能とし、これまで見えなかったものを可視化します。当社ではこれらの最先端の技術を用いて世界で戦うための国産オリジナルの空間時系列データ解析・共有基盤の技術開発に取り組んでおります。現実世界・社会・産業のデジタル化が加速していく時代において、当社は次世代を支える新たなインフラ企業となることを目指しています。

研究シーズ一覧

NO	DX分類	大学・役職・氏名	テーマ	研究シーズ概要
8	インフラ点検	大阪公立大学 工業高等専門学校 客員研究員 乾 伊織	配管自動検査ロボットによるインフラ点検システムの開発	配管は高温媒体や化学薬品が縦横無尽に設備内を駆け巡っておりインフラや製造設備の神経網といえるものである。しかし、その点検を行う場合は、容易に目視や移動ができない等の問題がある。本研究では接続部や支持部などが点在する配管システムに対して接続部や支持部を自動的に判断して自走点検映像や情報を取得する独自の過酷環境対応ロボットシステムを開発中であり本事業を通じた研究開発により事業化の検証を行う。
9	建設業務	大阪公立大学 大学院人間社会システム科学研究科 教授 中島 智晴	AI導入による建築積算監理業務効率化のための革新的支援システム	建築の重要業務である積算業務（建設工事にかかる費用を事前に算出する業務）に用いる積算データに焦点を当て、建設案件の複雑な構造を踏まえて多岐にわたる単価情報から最適な単価情報を選択できる複数の人工知能技術を開発してきた。本成果を用いて建築積算管理業務の作業効率の革新と働き方改革への貢献を目指す。
10	ヘルステック	京都府立医科大学 講師 妹尾 恵太郎	心房細動患者の経口抗凝固薬アドヒアランスを改善するスマートフォンアプリの開発	「心房細動アプリ」とは「心房細動アプリ」では、設定した時間に服薬のお知らせをするリマインダー機能により「うっかり服薬忘れ」を防ぎます。また、時間の経過とともに服薬持続のモチベーション低下や自己判断による服薬中止の傾向があるため、疑問を感じた時、治療に関する正しい情報をすぐに学べる動画も搭載しています。さらに、服薬カレンダー機能では、服薬の履歴を残すことができ、アプリの画面を見せることで医師との情報共有がその先の治療計画にも役立ちます。